

# 令和元年度京都府生活習慣病検診等管理指導協議会 がん検診部会の結果概要について

- ・ 日時：令和元年8月30日（金）15時～17時
- ・ 場所：京都ガーデンパレス 橋の間
- ・ 出席者：別添名簿のとおり（廣畑委員欠席）
- ・ 協議結果の概要

## （1）報告・・・資料1

### 前回からの経過、改善点等

#### ●チェックリスト

##### ＜都道府県＞

- ・5つのがん検診について前年と同様のB評価（A～Eの5段階のうちBは上から2段階目）

##### ＜市町村＞

- ・全体的にみてチェックリストは年々改善傾向。
- ・精検受診率向上に関する項目の中で「個人毎の精密検査方法及び結果を市区町村、検診機関、精密検査機関が共有」に関する項目が改善傾向にあるが、集団検診は個別検診と比較して、未達成の割合が高い。

##### ＜検診機関（集団）・医師会＞

- ・「受診者への説明」の項目群は年々改善傾向。
- ・「受診者または市町村への結果通知」や、「精度管理向上のための委員会等に参加」の項目については、検診機関間での格差が大きい。

#### ●プロセス指標

##### ＜市町村＞

- ・京都府の精検受診率は大腸がん（個別）、乳がん（個別）、子宮がん（集団）で増加傾向。
- ・京都府の大腸がん（集団）の精検受診率は、3年連続で全国平均値より低い。

##### ＜検診機関（集団）・医師会＞

- ・「乳がん」、「大腸がん」、「肺がん」の要精検率が減少傾向。
- ・検診機関毎に母数が異なり、対象者の年齢構成まで把握できていないため、評価が難しい。

#### ●指針外の検診

##### ＜市町村＞

- ・平成30年度以降、乳がん検診「視触診」単独検診がなくなった。
- ・平成30年度は前年度と比較して子宮体がんを実施している市町村が9市町村減少。

## (2) 意見交換・・・資料2

### ①精密検査結果を返さない医療機関への対応について

#### <報告概要>

- ・平成30年度中に医療機関から市町村に精密検査結果が未返信の事例があったと回答したのは、7市町村であった。
- ・1市町村につき未報告件数（1年間）は、1～37件とばらつきがあった。

#### <委員からの主な意見等>

- ・がん検診部会名で医療機関へ通知する、府医師会のがん検診委員会へ情報提供するなど、やれることはやれば良い。市町村から普段付き合いのない医療機関に対して調整は難しい
- ・具体的な医療機関名は把握しているのか。どこでミスが起きているのか、システム的な問題なのか明確にする必要がある
- ・結果報告様式が医療機関にとってはわかりにくいのではないか。結果が戻ってこないのは問題。医療機関に対しては医師会からも働きかけたい。
- ・意識していても、失念することもあるので様式は目立つようにしてほしい。未返信の多い市町村は様式を工夫してはどうか。
- ・がん毎に府で統一様式にすることはできないのか？
- ・医療機関全体としての問題なのか、部位別によるものなのか、もう少し分析するべき

#### <今後の方向性>

- ・精密検査未返信について医療機関別、がん部位別に分析
- ・府での精密検査結果の統一様式の検討
- ・府医師会と連携して対応していく

### ②大腸がん（集団）の精検受診率向上について

#### <報告概要>

- ・3年連続で、府の精検受診率は国平均より低い。
- ・精検受診率を年代別に分析すると、40代・50代が67%台で低い（全年齢平均72.5%）。
- ・精密検査未受診者の理由として、「忙しいから」、「大腸カメラが負担だから受けない」「痔だから大丈夫」、「受診者が高齢者のため医師が精検をすすめない」等がある。
- ・精検受診率が高い大津市の取組として「痔疾患があり出血がある方」、「陽性となっても精密検査を受けることを了承しない方」は検診（個別）の対象外となっていることを紹介。

#### <委員からの主な意見等>

- ・大津市では、痔の人ががん検診の対象外とあるが、痔の人もがんのリスクはあるのでは？
- ・京都市では、特定健診はかかりつけ医に健診結果が返ってくるが、大腸がんは検査キットを手渡すが検診検査結果がかかりつけ医には返ってこない。システム上に問題がある。もし大腸がん検診結果がわかれば陽性で精検未受診の方には受けるように受診勧奨が出来る。
- ・精検受診率を上げるためには、市町村から住民への結果返しに工夫がいるのではないか
- ・うまくいっている市町村の受診勧奨の方法を参考にしてはどうか
- ・40代、50代には大腸がんが若い世代に増えているというデータを示すなど、正しい知

識を伝えるべき。

- ・仕事を休んで検診に行けるよう企業の協力が必要。府や市、企業の役割分担が必要
- ・受診率を上げるためにメディア等と連携してはどうか。（例：ためしてガッテンの乳がん等）

#### <今後の方向性>

- ・40代、50代を重点ターゲット層として対策を検討していく
- ・精検受診率の高い市町村の方法を参考にする
- ・企業との連携を検討する
- ・京都市の大腸がん個別検診のシステム改善について、対応を依頼する

### ③検診の住民への結果返しが遅くなっている検診機関への対応について

#### <主な報告内容>

- ・肺がん検診の結果返しがデジタル化に伴い平均55日となっている。（アナログは39日）
- ・市町村にとっては住民から「結果通知が遅い」等の問い合わせが増加したり、総合検診の場合は肺がんのみ別途通知が必要となり発送費や手間が余分にかかる。

#### <委員からの主な意見等>

- ・早く検診結果を通知できるよう努力はしているが、1枚の画像で肺がん・結核を判断しているため4人が読影している状況。がんと思われる場合は至急精検としてすぐに連絡している。京丹後市はデジタル化して5年になる。過去の蓄積があるから作業が早くすすむ。今は過去フィルムにはアナログが混在している過渡期であるため、2、3年すれば各市町村に蓄積でき、もう少し日数も早くなるのではないか。
- ・Doctor's delay と、Patient's delay の関係のように、検査—読影—市町村—住民のどこの過程に遅れがあるのか整理してはどうか

#### <今後の方向性>

- ・引き続き現状把握に努めるとともに、改善策について検討していく。

#### (3) 情報提供・・・資料③

- ・胃がんワーキングについて
- ・がん検診の結果に関する正確な通知について
- ・がん検診のあり方に関する検討会について

#### <委員からの情報提供>

- ・がん検診年齢の上限については国が検討しているところであるが、がん検診の上限を設定すると市町村への地方交付税が減る懸念がある。
- ・京都市では胃内視鏡検査における読影システムができています。府内での実施について検討しているところ。
- ・子宮がんについてはワクチン接種率が激減している。いかに若年層の子宮頸がん検診受診

率を上げていくのが課題。正しい知識をきちんと伝えることが大切。

(4) 次回に向けて

- 京都府 HP にはチェックリストの市町村ランキングは出さない。
- 次回から、オブザーバーとして市町村・検診機関等の関係者の出席を可能とする。